

| | | | |
|-------|---------------------|-----|--------------|
| 番 号 | 国 3 | 区 分 | 国指定文化財 |
| 種 別 | 近代化遺産（重要文化財） | | 所有者 関西電力株式会社 |
| 名 称 | 読書(よみかき)発電所施設 1 構 | | |
| 指定年月日 | 平成 6 年 1 2 月 2 7 日 | | |
| 所 在 地 | 南木曾町 読書 柿其 ～ 読書 島田籠 | | |

概 要

施設 1 構（発電所本館・水槽・水圧鉄管、柿其水路橋、桃介橋）

- ・読書発電所本館、水槽・水圧鉄管

福沢桃介は木曾川水系に、賤母発電所を皮切りに次々と発電所を建設し、電力王とも呼ばれた実業家である。中でも大正 1 2 年 1 2 月に当時の金額で 1,797 万円という巨費を投じて完成させた読書発電所は出力が 40,700 k w（後 42,100 k w）という完成時は日本一の発電量を誇っていた。日本で発電施設が重要文化財に指定されたのは初めてであり、今も稼動している設備が指定されたのも初めてのことである。

- ・桃介橋（ももすけばし）

桃介橋は大正 1 1 年 9 月に読書発電所建設の資材運搬路として架けられた橋である。ニューヨークの橋に似せて外国人技師により設計されたという美しく雄大な景観とともに、中洲に降りる階段があるユニークさを併せ持った橋は、木製補鋼桁を持つ吊橋としては日本最大級の長大橋である。大正時代の土木技術の粋を集めつくられたつり橋も戦後は町へ移管され老朽化が進み、廃橋寸前になっていたが平成 5 年に復原工事が行われ、国の近代化遺産に指定されている。架設当時の正式な橋名は「桃之橋」だったが、いつしか「桃介橋」となり現在の正式名称ともなっている。地域のランドマークとして親しまれる一方、今も生活道として利用されている現役の橋である。

- ・柿其水路橋（かきぞれ すいろきょう）

読書発電所への導水路のうちで、柿其川を渡る鉄筋コンクリート造りの水路橋である。全長は 1 4 2 . 4 m。両端部は桁橋となっている。現存する戦前の水路橋のなかでは最大級の規模を誇る。

